

3 特集

地域連携のあり方を問う

19 For School Section

- 20 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
大阪府立農芸高校
- 24 — 疑問や課題を解決! 実践につながる! — 新課程レポート
新課程1期生入学に向けた「情報I」の準備
- 28 指導変革の軌跡
青森県・私立東奥義塾高校
- 32 輝く学年団を訪ねて
福岡県立朝倉高校 1学年団
- 36 学校危機管理 基礎講座
テーマ 教師・生徒の健康管理

39 For Teacher Section

- 40 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 40 美術 愛媛県立三島高校 内海篤彦
- 44 国語 大分県立大分舞鶴高校 佐藤秀信
- 48 SDGsの視点で見る大学の学び
- 48 目標4 山梨大学
教育学部 幼小発達教育コース 高橋英児研究室
- 50 目標14 北海道大学
水産学部 海洋生物科学科 生産生態学研究室
- 52 これからの進路指導のための世の中トレンド解説
トレンド・ワード 心理的安全性
- 56 誌上で見学 学びのnext
クロスカリキュラム 山梨県立白根高校

巻頭 未来を描く! 創る! イノベティブな生徒たち
丸尾 瑛さん(高校3年生) 上柳政太さん(高校2年生)
静岡県・私立静岡聖光学院中学校・高校

- 38 データから考える! 指導のnext
ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」

64 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本/(株)協同プレス 編集協力/(有)ペンダコ 執筆協力/中丸 満、二宮良太、長谷川敦 撮影協力/荒川 潤、鍋坂樹伸、福山 哲、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

地域連携の あり方を問う

2021年も残りあとわずか。2022年は、いよいよ高校で新学習指導要領が実施されます。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められていますが、それは、“よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る”という理念を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むことを意味しています。学校や生徒にとって最も身近な社会は“地域”です。実際、多くの学校が、探究学習を中心とした教育活動において、地域と連携・協働しています。一方で、全国の高校教師を対象にしたベネッセ教育総合研究所の調査(*)では、約73%が「外部機関との連携が難しい」と回答するなど、社会との連携に難しさを感じている学校・教師も少なくありません。そこで、本特集は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、どのような地域連携を目指すとよいのか、地域連携を推進する上で生じる問題をどのように解決していけばよいのか、先進校の先生方とともに考えました。ぜひ、ご一読ください。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 地域連携のあり方を問う ―座談会―

埼玉県立小川高校 教頭 篠田俊文 / 熊本県立熊本工業高校 土木科科长 さるわたり 猿渡和博 /
宮崎県立都城西高校 みやまのしやうにし フロンティア科主任 えりい 福田映李

P.4 現状整理

取り組みが広がる一方で、課題も多い地域連携

P.6 実践紹介1 埼玉県立小川高校

地域を「活かす」学びを各教科の授業で展開し、探究を深める

P.8 実践紹介2 熊本県立熊本工業高校

地域の産学官が連携し、災害対応型エンジニアの育成プログラムを構築

P.10 実践紹介3 宮崎県立都城西高校

生徒が直接企業とかかわり、地元企業が抱える課題に取り組む探究学習を推進

P.12 見解提示

活動の目的や生徒の変容を、かかわるすべての人と共有し、連携上の課題を乗り越える

P.16 本特集テーマのnext

学校と地域をつなぎ、双方の課題に協働して取り組む「コーディネーター」
認定NPO法人カタリバ職員、大槌町教育委員会教育専門官 かんの 菅野祐太

*ベネッセ教育総合研究所「高校教員調査」(2021年8~9月実施、回答者数3,214人)